

若手研会報

平成19年4月15（日）
愛知・若手教育者研究会

4月15日、本年度最初の若手研例会を行いました。学校の年度の立ち上がりで大変な時期でしたが、実施させていただきました。

◆参加者

霜田一敏（愛教大名誉教授） 酒井宏明（三好北部小）
宇野善久（弥富市十四山西部小） 中島年隆（西尾・平坂中）
川合英彦（豊田市教育センター）

◆今回の内容

- 1 近況報告
- 2 国語科宇野先生提案
- 3 中学校の社会科授業について

はじめに参加者の近況報告を行いました。

◆霜田一敏先生

12年勤めた淑徳大を3月退官されました。豊田市のフォレスタ・ヒルズのジムでウォーキングなどを悠々自適な生活をされているそうです。今年も、酒井先生の三好北部小には十数回訪問する予定。自宅の図書を希望者に配布中。希望の方はぜひご連絡ください。

◆酒井宏明先生

今年秋の愛知県社会科研究大会を勤務校で開催予定。全学級で社会科を中心とした授業公開をするそうです。

◆宇野善久先生

- ・弥富市十四山西小3年目。昨年まで国語の文科省の研究指定。今年も継続予定。
- ・授業は音楽、国語、体育などを担当。おたより、校内掲示なども担当している。

◆中島年隆先生

- ・今年小学校より西尾市平坂中へ転勤。2年生担任。7クラス。担任は20代が大半。教員経験5年目でいきなり中堅となる。
- ・部活は剣道部。全国大会を目指している。夜7時半まで部活それから仕事が始まる。
- ・日々の社会の授業を大切にしたい。
- ・今年は6月28日に指導員訪問。秋、愛社研でお茶の実践を発表。勤務校は学習指導研究指定校。今年最終年度の発表会をひかえている。

※中島先生、今回も午前中に部活を行ってから、駆けつけてくださいました。

◆川合英彦

- ・豊田市教育センターに転勤。おもにICT（コンピュータ、情報教育）担当。趣味だったパソコンが仕事になってしまいました。4月、各校のホームページ、メー

ルの変更の電話対応で明け暮れました。少しずつ、自分のペースをつかみたいと思います。

また、参加者以外では水谷先生が、七宝小学校に転勤されました（校務主任）。理科の研究指定とのこと、専門が理科の水谷先生が活躍されることと思います。そして、2月より2回連続で参加いただいている豊橋・田村高浩先生は田原市の田原東部小学校に転勤されました。学習指導の研究指定校ということで、どのように研究を進めていくかを思案中とのことでした。そして、武豊町・衣浦小の岩田先生は、メールでも連絡させていただいたとおり、F B Cの審査を目前に控えての休日出勤とのことでした。今回参加されなかった先生方、メール等で近況をお知らせください。

提案1 読書体験を生かした国語力の向上

－交流活動を支える言語生活力の育成を通して－

平成17・18年度文部科学省指定「国語力向上モデル事業」

宇野善久先生（弥富市十四山西部小）

◆方針

- ・読書活動と国語の授業の両面から伝えあう力を育てる
- ・学校ぐるみで、家庭、地域を巻き込む

◆読書活動における国語力

（1）図書集会の取組み「読書体験で得た感動を人に伝え合う」

- ・相手意識をはっきりさせて全校が各学年ごとに、出し物を実施。ダンス、劇、語り、人間紙芝居、暗唱、ブックトークなど。

（2）総合的な学習の時間での取組み

「環境と体」ーポスターセッションを通して伝え合うー

（3）読書活動への取組み

- ・朝の活動（読書カードへの記入、通知表への読書ページの記入、4原則の実施）、学年指定図書、教師の読み聞かせ、異学年による読み聞かせ（図書委員が一般の子に、2年生が1年生に）、親子読書、保育所・福祉施設での読み聞かせ、地域ボランティアによる読み聞かせ

◆国語科等における国語力

授業実践

◆言語生活力向上に関わる取組み

スピーチ、行事作文、学芸会、標語、「話す・聞く」の教室掲示、評価

宇野先生は、素晴らしいパワーポイントによるプレゼンで提案してくださいました。紙で配布いただいた資料（紀要）も素晴らしかったです。一つ一つの実践に使われた指導案、プリント、教師作成プリント、授業の反省など膨大な資料が用意されていました。行事作文の資料として陸上、学芸会など1年間、全ての子どものスピーチの記録と教師のコメントが記録されていました。

親子読書は、家庭の手ごたえがあったそうです。そして、子どもたちが福祉施設を訪問して朗読を行うときは、相手を意識した計画をたて、実行できたそうです。

（提案に対する協議） ※一部です。

中島 西野町小学校も「国語力向上モデル」の指定校だった。朝の読書をやらなくなったときもあった。校長先生から怒られたことがある。ブックウォークもやった。親子読書をやってみたいと思った。学校体制で親子読書は進めるといいとおもった。

川合 「国語力」「言語生活力」「読書活動における国語力」「国語科等における国語力」などいくつかの力のつく言葉が出てくる。研究の進め方、まとめ方として、力の構造と力をつける方法、手立てを示すといい。読書活動と国語の授業の関連などこの研究の根本にかかわるところはみんなが知りたがっているところ。

霜田 どのくらいの子がこの研究で本を読むようになったのか。読むことの楽しさを味わったのか。「Aを読んだら、Bが読みたくなった」という体験をしているか。読書の連続性を大切にしたい。子どもの主体的な読みを支援したい。子どもの本の選択に教師が支援する必要があるのではないか。どうしたら、その子が読書の楽しみを身につけることができるのかを研究しないと、子どもの実体でなくなってしまう。子どもが「おもしろかった」という体験を伝え合うこともいい。作品に対する感想を出し合う。一人一人の感想が違うことを知ることいい。読書の楽しみを知るとは、読む力もつく、考える力もつく。文章を書く力もつく。子どもの育ち（どんな子どもを育てたいか）の側から研究を見ていく必要がある。

「子どもがどうしたら読みを楽しむ体験ができるか」を研究してほしい。文庫本サイズの本をそろえるなどいい。「楽しみ」であれば力がつく。強制は楽しみにならない。いい本でも「読みなさい」とすると嫌な本になる。選択を子どもにさせるとよい。読み聞かせも、遊ぶか、読み聞かせを聞くかは子どもに選択させればいい。

宇野 身近に本がある状態をつついている。

霜田 子どもたちに愛読書ができてくるとよい。

川合 朝の読書で読んでいる本の集計をしてみんなが読んでいるを紹介するのも面白い。前任校で図書委員の活動としてやっていたが、子どもたちが本について話すようになってきた。

霜田 紀要に「家族日記」などいい実践が載っている。ただ、教師がやっていることが子どもにどう受け止められているかという視点があるとよい。

提案2 普段の中学校社会科の授業について

中島年隆先生

今年中学に転勤した中島先生から普段の授業をどうするかという切実な提案がありました。今は、授業ごとに学習プリントを準備してみえるそうです。今回そのプリントも提案していただきました。

宇野 「受験」と「考えさせる」の二本立てで授業を行う。

川合 普段は問題解決学習でなく、課題解決学習にする。課題を教師与えて、考えさせる。AかBかCか、選択にして話し合わせる。具体物を持っていく。資料集の絵の活用。授業の中で①一つの資料について考えさせる場を設ける。②受験用のポイントは、必ずおさえる。黒板に書く。③前時の内容を5問テストで。④教師がまとめたプリントは効果が高い。(例)重要事項を地図にまとめたヨーロッパ編を作って配布。⑤グループを作って先生役を子どもに。

一年に一つは地域教材を開発して大単元の問題解決学習を行う。

霜田 マンガから入って子どもから疑問を出させて想像させる。

今の中学校は生活と勉強がきれている。子どもたちの授業観を変える必要がある。

中島先生流の社会科をこれから作ってくださいね。期待していきます！

次回の若手研について

この日は霜田先生の76回目のお誕生日です。お祝いの昼食会を行い、その後例会を行います。

◆日時 平成19年5月26日(土)11時30分集合。

◆場所 西加茂郡三好町立北部小学校

参加、提案について事前にメールなどで連絡いただけるとありがたいです。

今年一年、よろしくお願いします。

何かありましたら、次のアドレスまでご連絡ください。

hnk333@yahoo.co.jp

(川合英彦)